

宮崎の

世界農業遺産・日本農業遺産



G 7 宮崎農業大臣会合会場に
展示された模型（もけい）

世界農業遺産
（平成27年12月認定）
宮崎県高千穂郷・椎葉山地域

世界農業遺産に認定されている宮崎県高千穂郷・椎葉(しいば)山地域は、森林に囲まれ、そのほとんどが傾斜(けいしゃ)地であるという厳しい条件の中、人々は針葉樹による木材生産と広葉樹を活用したしいたけ栽培(さいばい)、和牛や茶の生産、焼畑などを複合的に行うことで、森林の保全と活用とのバランスを図りながら、地域に伝わる伝統文化「神楽」を大切に受け継ぎ(うけつぎ)暮らし続けています。

日本農業遺産に認定されている日南市の かつお一本釣り漁業は300年も続く伝統漁業で、大規模化する現代の漁業とは対照的に、必要な量だけ釣り上げ、かつおの資源を守ることを優先し、昔ながらの技術が受け継がれています。また、船を造るために杉の林を造った歴史を持つ飫肥(おび)林業とともに発展し、広大な飫肥杉の山々の恵みを伝統漁や地域の中で利用しています。



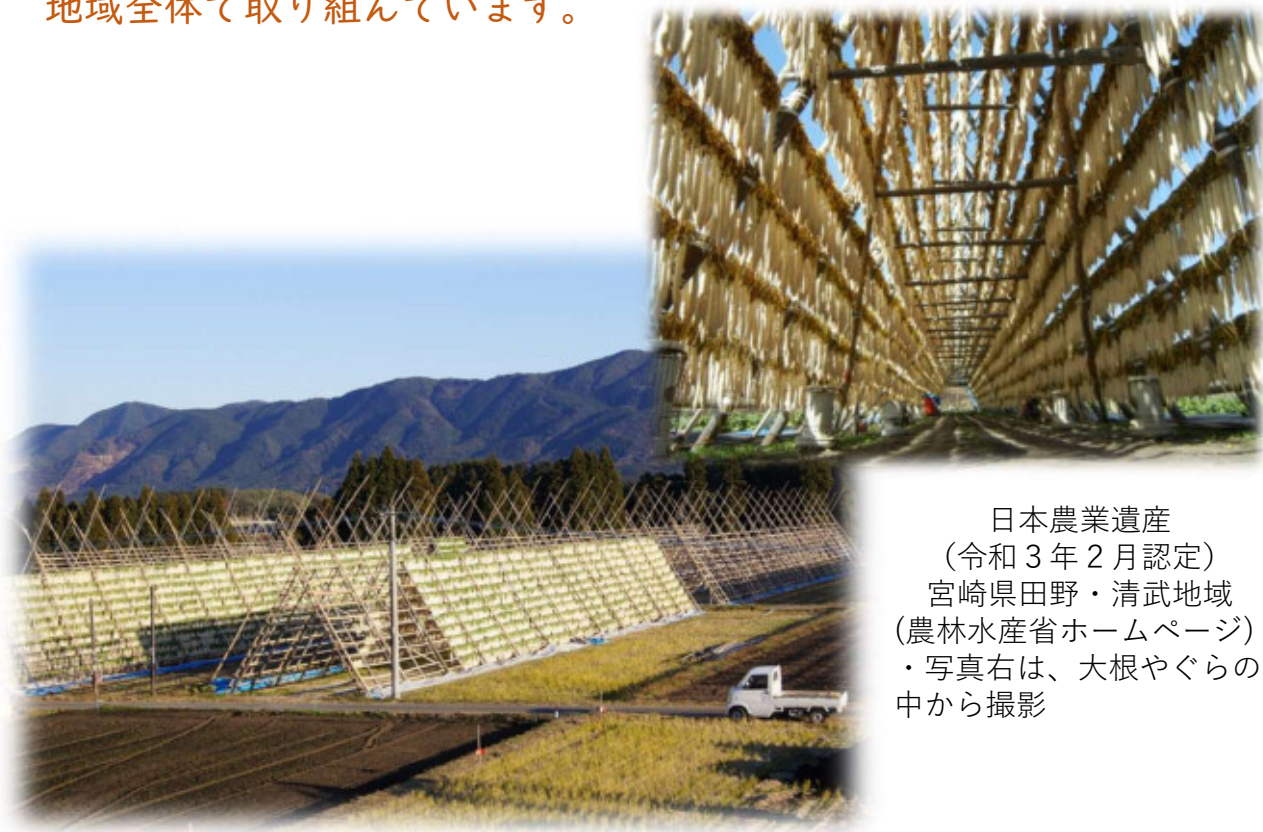
日南かつお一本釣り漁業の風景
（農林水産省ホームページ）

宮崎の

世界農業遺産・日本農業遺産



日本農業遺産に認定されている宮崎県田野・清武地域では、江戸時代後期に自然災害の備えとし「干し野菜」が始まり、時代の流れと共に「千切大根」「干し大根」の生産に変化しています。特に大根を丸ごと一本干す「干し大根」は、風土を最大限に活かし伝統的に継承(けいしょう)され、やぐらの景観も観光資源などに生かし地域全体で取り組んでいます。



日本農業遺産
(令和3年2月認定)
宮崎県田野・清武地域
(農林水産省ホームページ)
・写真右は、大根やぐらの中
から撮影

まふ・
ジョー
の一言



農業遺産でくらす 「生きもの」

この地域では、ダイコンやお茶などを作るために必要な機械を保管する倉庫に巣をつくるツバメがたくさんいます。



ツバメは身近な鳥ですが、全国的に数が減っていると言われています。

この地域では、一年を通して数多く見られ、お茶につく虫を食べてくれるので、「福を呼ぶ鳥」として歓迎され、より身近なものとして大切にされています。